研　究　の　全　体　構　想

H２４．２．１６

家庭・地域の実態

本校の教育目標

○自主的によく考え，正しく判断し実践する知性ある人（知）
○豊かな情操をもち，積極的に社会に奉仕する協調性のある人（和）
○健康な体と旺盛な気力をもって努力する粘りのある人（粘り）
「校訓　知と和と粘り」

生徒の実態

め　ざ　す　生　徒　像

○知性を磨く人	自ら課題を見つけ，自ら考え，判断解決しようとする意欲や行動力，表現力のある人
○豊かな心で協調性のある人	心豊かで，思いやりや感謝の気持ちをもって社会に奉仕したり，互いに高め合い協調性のある人
○粘り強い人	健康でたくましい体と強い精神力をもって粘り強く努力する人

「学びを楽しむ」とは
　学習内容において『わかる・できる』などの学びの達成感を味わわせ，自己の学びの有用性を感じさせ意欲をもたせること。

研　究　主　題

学びを楽しむ生徒の育成

～集団で学ぶよさを大切にした学習活動を通して～

・身に付けなければならない基礎的・基本的な知識・技能の定着をはかる学び
・他者との関わりから自らの考えを深めることができる学び
・学びを活用する場面を想定し，充実感をもたせる学び

研究でめざす生徒の姿

○基礎的・基本的な知識技能の定着を目指す生徒（知）

○仲間とともに学び、高め合う生徒（和）

○自分の学びを生活や他の場面で生かす生徒（粘り）

研　究　の　仮　説

　身に付けなければならない基礎的・基本的な知識・技能の定着をはかる学習活動を工夫し，学びの有用性を感じさせる活用場面を想定することにより，主体的に学び，意欲を持続させて学習に向かう生徒を育てることができるだろう。

仮　説　１

【学びの動機】
　導入場面において，身に付けなければならない基礎的・基本的な知識・技能習の定着のための課題や教材・教具を工夫することにより，意欲的に学習を進めていく生徒を育てることができるだろう。

仮　説　２

【学びの追究】
　課題追究・解決場面において，交流活動を設定し，生徒同士・教師などとのかかわりを工夫することにより，自分の考えをもち，互いの考えを伝え合い高め合う生徒が育つだろう。

仮　説　３

【学びの活用】
　終末場面において，自分や集団の学びの達成感や活用を確認できる自己評価・相互評価を工夫することにより，学びを楽しいと感じ，意欲をもって次の活動に取り組む生徒を育てることができるだろう。

研究内容Ⅰ

「楽しむ基盤をつくる」
　基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざし、「できる・わかる」楽しさを味わう

研究内容Ⅱ

「学びを深め、楽しむ」
　他者とのかかわりから，自らの考えを深め、「なるほど、そういうことか」確かな自己をつくりあげる

研究内容Ⅲ

「学びを広げ、楽しむ」
　学びを活用する場面を想定し、「日常生活に、他の単元に、他の教科に、総合に役立つぞ！」などの学ぶ充実感をもたせる

計画―実践―評価―改善

研　究　の　推　進　計　画

４年計画の具体的な研究内容

１年次	２年次	３年次	４年次
研究内容Ⅰ ◎各教科で「楽しむ基盤をつくる」ため、楽しみ方を研究します。	研究内容Ⅰ・Ⅱ ◎「学びを深める」ため、他者との関わり方の工夫を中心に研究します。	研究内容Ⅱ・Ⅲ ◎「学びを広げる」ため、学んだことが生かされる充実感を味わわすことを中心に研究します。	研究内容Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ◎研究内容を重点化し，研究を進めます。